

「存知ですか？」

映画監督 島津保次郎

現在の東矢口一丁目（当時の蓮沼町）池上線の際に、昭和二年四月に移り住み、昭和二十年九月に亡くなるまでの十八年間を過ごした島津保次郎は、トーキーからサイレントの過渡期に庶民の日常を明るく描く、いわゆる松竹蒲田調という作風を確立した監督であり、世界に誇る日本の映画監督であった。

氏は明治三十年東京神田生まれ、正則学園高等学校（旧正則英語学校）在学中から映画にのめり込み、通信省の宣伝映画の脚本募集に応募、入選。その後家業の下駄屋の仕事に継ぐが、当時、松竹が映画事業に乗り出すことを知り、演劇界のリーダーであった劇作家・小山内薫の知己を得て、松竹キネマ研究所に入社した。

督を経て監督に昇進した。関東大震災で蒲田撮影所が壊滅状態となり、撮影の中心は京都に移るが、撮影所長城戸四郎らと共に東京に残り、低予算で庶民を描く作品作りを推進する。その際島津はハウプトマンの原作を伊藤大輔が脚色し「山の線路番」（1923）を監督。この作品で存在を認められる。

に移り、満を持して泉鏡花原作「白鷺」（1941）等をはじめとする数作の大作に取り組み。「白鷺」は文豪・泉鏡花原作、入江たか子・黒川弥太郎主演で、明治の末期、浜町河岸を舞台に料亭の箱入り娘お篠が、さまざまな遍歴を経て、芸者へと身を落とし、いく様を描いた悲恋劇である。因みにこの「白鷺」は後に大映でリメイクされ、衣笠貞之助監督、山本富士子・川崎敬三主演によりカンヌ国際映画祭で特別賞を受賞している。

島津保次郎が後世に与えた影響ははかり知れない。五所平之助、豊田四郎、吉村公三郎、木下恵介、川島雄三、谷千仙吉らの巨匠、女優原節子を育てた。東宝の文芸部にいた池部良は彼に見出され、俳優に転向した話は有名である。池部良の回想録「心残り」は、「池部良との思い出が綴られている。（取材 石渡 柏村委員）」

事務局からのお知らせ

四月一日から蒲田西特別出張所長になりました篠塚えみ子です。現在大田区では、防災、防犯、高齢者福祉、子育て支援など地道に活動を続けている地域の方々へ知恵を出し合い、手を携えて地域力を向上させていくことが課題となっています。また、特別出張所が地域の核としてその役割を果たしていくことが求められています。そのために地域の皆様からさらに信頼していただける特別出張所となるよう、職員一同努力してまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

蒲田西地区は、住民の方も多く大商店街や由緒ある神社仏閣、JR蒲田駅、東急蒲田駅と大田区交通の要所でもあり、区を代表する重要な地域となっています。このような地域の情報誌である「かまにし」を通じて、蒲田西地域の思いがけない発見や新しい出会いを楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。

情報誌の対する「ご意見やご感想、投稿などをお寄せください。」

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七十一番二七
(三七三三) 四七八五

平成20年6月1日発行

かまにし 第28号

発行集 わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編集 地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

矢口子ども安全ボランティア スマイルネット

「出来る事を・出来る時に・出来る範囲で・継続して！」

子どもを被害者とする悲しい事件が、全国で相次いで起こっています。こうした中、子どもの安全確保のため、平成18年10月に矢口小学校を中心に安方南町会・安方北町会・多摩川二丁目町会・今泉自治会の協力を得て、学校・PTA並びに地域で立ち上げた団体が「スマイルネット」です。

運営委員代表は原野信也さん（地域教育連絡協議会委員、蒲田西地区青少年対策委員）以下十二名の運営委員からなり、平成19年10月の設立一周年の総会には、メンバー登録も百二十名を超すまでに大きく成長しました。これはご父兄をはじめ、特に地元住民の子どもたちに対する安全意識が高まってきた証拠と思われまます。

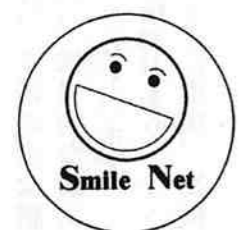
スマイルネットの腕章やバッジを身につけたメンバーの方々が、子ども達の登下校時のもとより、普段のお買い物時、犬の散歩時などにも、常に地元地域の安全と外部からの不審者等に

気配りをし、犯罪を事前に防ぐ役割をしています。

活動も一年を経過し、子ども達とのかわりも定着してきた様に見受けられます。当初は登下校時にメンバーが挨拶しても無反応でいた子ども達も、今では「おはよう、行ってきます！」と逆に声をかけられるようになってきました。

「子ども達の笑顔からいっぱいのパワーをもらい、毎日を元気に過ごすことができ、感謝しています。」こんなお手紙も寄せられています。自分達のお子さん、お孫さんですでに成長し小学生の子ども達と接する機会がなくなつたメンバーの方々も今は嬉しそうに自分のお子達を見守るような感じで、子ども達と挨拶や会話が弾んでいます。一人でも多くの方々がこの活動に参加していただけるように

ただけるようにの思いを込め、年に4回の手作り機関紙「スマイルネットニュー



「ス」を発行し、メンバーの皆さんの活動の報告や、連絡事項を掲載しています。地域の掲示板等にもポスターをお願いし、また地域の行事には積極的に参加をしてPRに全力を尽くしています。メンバーが増えることと、子どもの安全は比例しているものと確信しています。

スマイルネットはボランティア活動として蒲田西地区はもとより、大田区からも評価を得ています。子ども達の遊ぶ声が聞こえなくなるのは寂しいものです。少子化に歯止めがかからない今日の現状であるからこそ「安全に子育てができる環境づくりこそが何にもまして大切である」という考えのもとに、今後もメンバー一同頑張りまます。

（担当 大平委員）
スマイルネット運営委員



特集 「玉川八十八ヶ所霊場」

「玉川八十八ヶ所霊場」の由来
真言宗の宗祖である「空海」の名を知らなくても、「弘法大師」入滅後醍醐天皇より賜る」と聞けば知る人は多いと思えます。2年ほど前、NHKテレビで「空海の風景」というドキュメンタリー番組を放送していましたが、四国の讃岐で降誕し、後山で入滅するまでの生涯を、知徳の優れた人物像を余すところなく描いた内容でした。本紙愛読者の皆さんの中にも改めて認識された方も多いはずですよ。

能書家であり、儒教・道教・仏教（三教指帰）の比較思想論で高名な高僧です。また、遣唐使として入唐し、国際情勢の収集と中国の先進的な技術や仏教哲学を持ち帰り、その後のわが国の文化に多大な影響を与えた使節でもあります。

「玉川八十八ヶ所霊場」とは、その「空海」が故郷である四国の山岳修行時代に、開基した「四国八十八ヶ所霊場」にあや

かり、江戸時代初期に關東は多摩川流域の寺院の弟子や檀信徒たちが88の寺院を霊場に定め、順次参拝修行の道程として開創した名称のことです。それ以来、幅広く大衆に迎合され大変賑わったということですよ。

その後明治時代に入ると、日清・日露戦争の混乱により廃止と復興を繰り返していましたが、昭和48年、弘法大師生誕1200年の期に第一霊場の川崎大師・平間寺が中心になって、札所の変更と確定が整理され現在の形に整備されたということですよ。従来の名称は「多摩川八十八ヶ所霊場」でしたが、東京の西部多摩地区に現存する「多摩八十八ヶ所」とまぎらわしいので、正式に「玉川八十八ヶ所霊場」と改称したということですよ。

「八十八」の数字

札所順番は、一番の川崎大師・平間寺から、八十八番の大田区西六郷・宝幢院まで順次確定されています。八十八ヶ所という

数字の由緒には、さまざまな謂れがありますが、代表的な説に次の3つが挙げられています。
①人間には88の煩惱があり、1ヶ寺参拝することに逐次、払拭される。

②男子42歳、女子33歳、子供13歳がそれぞれ大厄とされていますが、その合計の数が88となり、88寺院を巡礼することで災厄から脱却できる。

③日本人の主食であり、しばしば信仰の対象にされる「米」、この字を分解すると「八十八」と読める。すなわち「米」に対する感謝の気持ちを堅持する。しかし、どれを信じようと霊場巡りに共通して言えることは、巡礼の道程で、それぞれの地域の美しい自然人と触れ合いを満喫し人情に感動し、ひたすら万物に感謝の心を捧げる生き方こそが、遍路に求められる要素ではないでしょうか。信条・宗派を超越し、生きる喜びと価値観の再発見の巡りはいかがですか。健康増進の目的からもお勧めします。管内には当該札所が5寺院在りますので、近い所から挑戦してみましよう。

「管内の札所寺院案内」
遍照院 光明山 無量寺 真言宗智山派「玉川八十八ヶ所霊場」六十四番札所



所在地 多摩川一丁目5番
御本尊 阿彌陀如来

仏像 木像阿彌陀如来立像 高さ23・5cm。木像不動明王立像 高さ42cm

石造物 供養塔群5基（区指定有形民族文化財） 念仏1基、承応3年。庚申2基 延宝8年。庚申1基 文化5年。66部廻国1基 正徳4年。六地藏 文政3年。

沿革 太平洋戦争の戦火で記録類を消失し、不詳ですが、古来の言い伝えによりますと、明治初期には茅葺きの寺で長く無住のため個人所有の墓やその他檀徒外の墓が集まっていたと言います。「新編武蔵風土記稿」によれば開山開基は不明で、はじめは小さな庵室で、寺となったのは江戸時代の後期との事。昭

和45年環状8号線道路工事のため、境内が2分断され、現在地に本堂並びに庫裡が再建されたのは、昭和46年7月でした。
金剛院 圓日山 大照寺 真言宗智山派 「玉川八十八ヶ所霊場」六十五番札所



所在地 新蒲田二丁目3番
御本尊 金剛界大日如来（左近作）

仏像 木像大日如来坐像 元禄7年、高さ63cm（区指定文化財・非公開）

石造物 庚申塔2基 寛文12年・天和2年。地藏立像4基 元禄4年・寛延元年・享保15年・享保21年。

沿革 「新編武蔵風土記」には、新義真言宗高畑村宝幢院末寺で、大照坊圓日大和上人が開山したとあり、開創の年代は不明です。長老の口碑によると慶長年間の頃、小林坊と称する庵室があり、恵日山広大寺と号したと言います。大正6年大日如来像の胎内

に造立銘のある木札が修復の際に発見され、京都五条東洞院（ひがしのとういん）の大仏師左近が造像したことが判明。本堂は戦災により焼失し、昭和23年と同32年に再建されたものです。
東福寺 諏訪山 無量院 真言宗智山派「玉川八十八ヶ所霊場」六十六番札所



所在地 多摩川二丁目10番
御本尊 阿彌陀如来

仏像 木像阿彌陀如来像 高さ45・5cm

沿革 「新編武蔵風土記稿」では開山・開基を伝えていませんが、墓地の石碑によれば開山は天和元年4月とあり、約4百年の歴史ある古刹です。不運にも太平洋戦争の戦火で、本堂・庫裏・書院・古文書等すべて烏有（うゆう）に帰し、詳らかではありませんが、先代住職や村の古老の口伝によると、板碑（戦火で消失）に、鎌倉時代の後期

には庵室があったと言い、江戸時代中期には阿彌陀様を安置し、多くの信仰を集めていたということですよ。現在の本堂は昭和32年に再建されたものです。
大楽寺 金剛法山 願照院 真言宗智山派「玉川八十八ヶ所霊場」六十七番札所



所在地 新蒲田三丁目4番
御本尊 阿彌陀如来

仏像 木像阿彌陀如来立像 高さ61cm。木像薬師如来坐像 高さ24・4cm。木像不動明王立像 高さ36・5cm。木像弘法坐像 高さ42・7cm。木像興教坐像 高さ42・7cm。木像像千手観世音菩薩立像 高さ15・2cm

石造物 庚申塔 貞享4年。66部供養塔 文政8年。六地藏 弘化3年。阿彌陀立像 造立年不明。板碑 18基。
沿革 開基は寛仁3年と伝えられ、境内から出土した石碑により平安末期には寺があったとの

事。戦国時代小田原北条氏の軍勢が、闇夜に新田氏を追うため寺に火を放ち、その明かりを利用して行軍したと伝えられています。また、江戸時代には徳川二代將軍秀忠が子供である後の三代將軍家光の健康を祈って、経文一卷と朱印を奉納し、それと同時に使用を認めた葵の紋が、現在でも随所で目につきます。先の戦火ですべてを焼失。昭和30年木像本堂が建立、48年には現本堂が再建。63年に楼門と鐘楼が、平成6年には蒲田不動尊が建立されました。
蓮華寺（七十番札所）は、本紙24号で紹介しましたので省略します。

以上いづれも由緒ある古刹で、慌ただしい雑踏と喧騒から一歩静寂な異次元の世界になり、煮詰められたような空気が重々しく漂い、荘厳な雰囲気包まれます。ひとときの安慰が確保され、今を生きる意義と喜びを再発見されること間違いありません。なお、納経帳・寺院名簿は川崎大師・平間寺にあります。遍歴の際は、証として納経ご朱印を忘れずに頂きましょう。
（取材 滝口委員）